

NEJIREBANE, No. 100, 31. Mar. 2002

田中 勇氏蒐集のコメツキムシについて

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

2000年の本学会開催時、西宮市在住の田中 勇氏から蒐集されたコメツキムシの同定を依頼された。その内容は下記したように本邦各地にわたるもので、亜種を含め 80 種見出され、以下に述べるように多くの新しい知見が含まれる貴重なコレクションであった。また、アカコメツキ類の中には種名同定の不確定のものが 1 種見出された。雌 1 頭の不完全個体のみで極めて近似の種があり決定は控えているが、新しいものである確率は高いと考えており、更に精査のうえ改めて報告したい。なお、採集者名の無いものはすべて田中 勇氏の採集されたものである。多くの貴重な標本について快く筆者保管をまかされた氏のご好意に深い謝意を表したい。

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 186) サビキコリ

屋久島原, 1♂, 21.VI.1992, 谷口 滋 leg.

Agrypnus (Agrypnus) scutellaris scutellaris (CANDÈZE, 1893) シロモンサビキコリ (Fig.1)

徳之島伊仙町, 1♂, VII.1997.

徳之島産の個体としては体長が19mmを越える大型のもので、一見八重山諸島に分布する別亜種の *hamai* サキシマシロモンサビキコリによく似た感じのものである。

Agrypnus (Sabikiorius) fuliginosus (CANDÈZE, 1865) ホソサビキコリ

岡山県川上村上徳山, 1♂, 16.VI.1988.

Agrypnus (Colaulon) tsushimensis tsushimensis ÔHIRA, 1986 ツシマヒメサビキコリ

兵庫県明石市林崎松江海岸, 2♂♂, 19.X.1991.

最近, 筆者(1998B: 6), 河上(1998: 10)及び, 特に河上・稲畑(2000: 19)の精力的な調査により, 兵庫・大阪などの大阪湾沿岸各地に本種が広く普通に棲息していることが判明した. この地域からはよく似た別種の *A. (C.) tsukamotoi* ハマベオオヒメサビキコリの分布も既に知られているが, この湾岸域には本種ツシマヒメの方が生息域も広く個体数も多い. また成虫の見られる時期も11・12の両月を除くほぼ通年にわたっているが, 今回の10月の記録が, 筆者の検した最も遅い時期のものとなる.

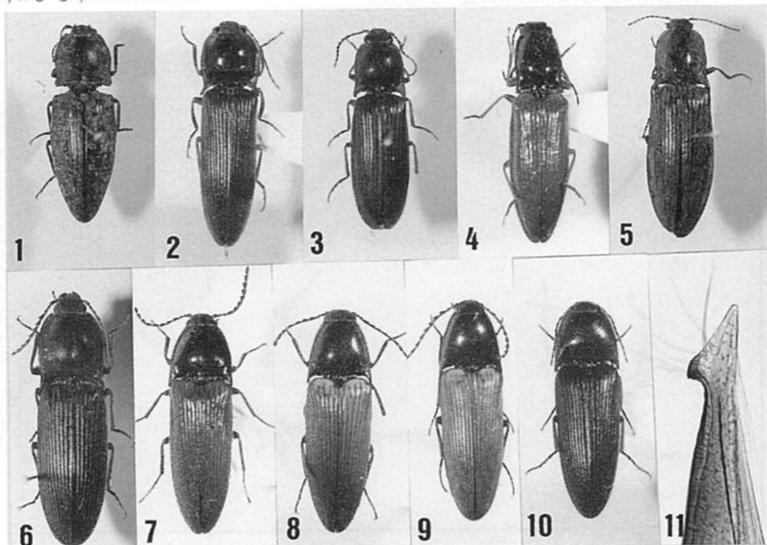


写真 1-11: 1, シロモンサビキコリ(徳之島伊仙町, ♂, 19.2 mm); 2, コガタムネスジダングラコメツキ(兵庫大屋町, ♀, 14.9 mm); 3, フトツヤハダコメツキ(奈良金剛山, ♀, 18.3 mm); 4, キバネツヤハダコメツキ(兵庫氷ノ山, ♂, 9.5 mm); 5, クロツヤシモフリコメツキ(滋賀伊吹山, ♀, 20.7 mm); 6, アカヒゲヒラタコメツキ(奈良春日山, ♀, 27.3 mm); 7, オオアカアシアカコメツキ(鳥取大山, ♀, 11.9 mm); 8, オオアカコメツキ(滋賀比良山, ♂, 11.9 mm); 9, セダカアカコメツキ(京都市松尾, ♀, 11.0 mm); 10, ミヤコアラハダチャイロコメツキ(京都市松尾, ♂, 11.5 mm); 11, ditto, 雄交尾器側片先端部.

Lacon (Alaotypus) yayeyamanus (MIWA, 1934) ヤエヤマサビコメツキ

奄美大島南川林道, 1♂, 30.VI-5.VII.1986.

Homotechnes motschulskyi kongoensis (KISHII, 1969) コンゴウミヤマヒサゴコメツキ

奈良県五條市金剛山, 1♀, 3.V.1990.

葛城金剛山系で見られる唯一のミヤマヒサゴコメツキで, 金剛山周辺でのみ採集されている. 標高がやや低いためと思われるが, ほぼ60 km西方の葛城山周辺からは知られていない. 今回の資料は奈良県側で採集されたが, 従来の採集域は大阪府側であった. 奈良県では最近, 春日山から極めて大型で黒みの強い亜種 *okudai* カスガミヤマヒサゴが報告され, 南の大台山系からの *taichii* オオダイミヤマヒサゴと共に3亜種が知られる事となったが, 金剛山のものが最も小型で, 且つ体色が淡茶褐色で黒い部分は殆ど認められず, この種では最も特異である.

Limonicus montivagus (LEWIS, 1894) ミヤマカネコメツキ

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♀, 17.V.1988; 養父郡大屋町坂ノ谷, 1♀, 21.VII.1999.

本種には体形や色彩で極めて良く似た別種が多く, 両性の生殖器構造にも大きな差異が少ないので同定には注意を要する. これらの中では本種が最も多く見られるが, 普通種という訳でもない. 前胸背板点刻は多少とも縦長の楕円形状で極めて密, 脚部は黄橙色で腿節が暗色になることはない. しかし近似の種中最も大きく, 体表の真鍮色の光沢が最も顕著で分かり易い.

Harminius (Harminius) singularis hondoensis KISHII, 1985 コガタムネスジダングラコメツキ(Fig.2)

兵庫県養父郡大屋町坂ノ谷, 2♀♀, 29.VII.2000, 岡崎国男 leg.

ムネスジダングラコメツキの仲間は、その和名でも分かるように前胸背板後部に極めて顕著な横位の隆起線を持ち、上翅には通常3対のやや不鮮明な白色毛斑が認められるが、この毛斑は時に消失する事もあり、また種によっては全く持たないものもある。しかし前胸背板の横隆起線は常に明瞭である。本種はLEWIS (1894: 201) が北海道南部の蓴菜沼から得た標本で記載し、その後本州からも記録されたが、筆者 (1985: 9) は本州産個体群は別亜種として上記のように命名した。現在まで青森から奈良県までの山地に分布することが分かっており、近畿地方では大阪・和歌山・兵庫からは未知であったが、今回兵庫県下での生息が判明した。四国・九州からの記録例もあるが、筆者は確かめていない。

Harminius (Harminius) nihonicus KISHII, 1979 ニホンムネスジダングラコメツキ

奈良県大台ヶ原山, 1♂, 18.V.1988.

本州でよく見かけるのは本種と別種で大型強壯な *H. (H.) galloisi* ガロアムネスジダングラであり前種コガタの方は少ない。前種とは似た点もあるので同定を間違ひやすいが、前胸が幅広で大きく、上翅末端が明瞭に裁断又は僅かにえぐられているのが前種で、本種では前胸は上翅とほぼ同じ幅で大きくなく、上翅末端も通常のコメツキのように丸くなるのみである。本種は本州中部地帯から南西日本各地に見られ、四国・九州にも分布しており、徳島県の剣山が原産地である。

Harminathous suturalis (CANDÈZE, 1873) フトツヤハダコメツキ (Fig.3)

大阪府南河内郡千早赤阪村金剛山 (正面口), 1♀, 6.VIII.1982.

兵庫県養父郡大屋町坂ノ谷, 1♂, 26.VII.1995.

青森から屋久島まで広く分布し、通常山地での燈火採集で得られることが多い。大阪からの報告例を見ていないので、今回の金剛山は大阪府初記録と思われる。

Medakathous jactatus jactatus (LEWIS, 1894) メダカツヤハダコメツキ

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 2♀♀, 28.VII.1987.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (CANDÈZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

奈良県五條市金剛山(ブナ林), 1♂, 6.VIII.1988.

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 30.VI.1989; 養父郡関宮町福定, 1♂, 20.VII.1990.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus (LEWIS, 1894) コクロツヤハダコメツキ

長野県王滝村御嶽山八海山, 1♂, 1♀, 26.VII.1989.

大阪府交野市私市, 1♀, 27.V.1987.

奈良県大台ヶ原山, 1♀, 28.VII.1988.

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♂, 5.VIII.1986.

兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 24.VII.1999, 岡崎国男 leg.; 養父郡大屋町坂ノ谷林道, 1♂, 21.VII.1999.

徳島県剣山, 1♂, 31.VII.1999, 岡崎国男 leg.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) kibane KISHII, 1989 キバネツヤハダコメツキ (Fig.4)

兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 31.VII.1996.; 養父郡大屋町坂ノ谷林道, 1♂, 16.VII.1997.

氷ノ山は本種の原産地で、時に多くの個体を見ることもある。最近分かったのであるがこの地域の個体の中には上翅が黒化するものもあり、前種とよく似ているので同定には注意が必要である。本種は前種よりも細型繊細な体形で、前胸背板点刻は前種より更に微小でまばらであり、前胸後角末端は細く狭まるが、前種では太く丸まる。

Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor (CANDÈZE, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ

和歌山県中辺路町大塔山, 1♂, 30.VI.1982, 桑原幸男 leg.

兵庫県養父郡関宮町福定, 2♂♂, 20.VII.1990.

Hypoganus miyatakei ÔHIRA, 1966 ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♂, 12.VIII.1986.

新潟から熊本まで広く分布しているが, 報告例は少なく珍しい種である. 筆者がこれまでに検した資料はすべて7月下旬から8月中旬に得られたもののみで, 遅い出現期のため採集機会が少ないものかも知れない. このような例は他にも *Elathous brunneus* クリイロツヤハダコメツキ, *Chatanayus ishiharai* ウスカバイロコメツキ等でも知られる. 本種は近畿地方ではこれまでに奈良県からの記録があるのみで, 和歌山からは初めてと思われる.

Actenicerus orientalis (CANDÈZE, 1889) オオシモフリコメツキ

兵庫県宍粟郡波賀町音水, 1♀, 18.VI.1990.

Actenicerus athoides (KISHII, 1955) クロツヤシモフリコメツキ (Fig.5)

滋賀県坂田郡伊吹町伊吹山, 2♀♀, 19.VII.1989, S.SHİKATA leg.

今回検した2頭の雌個体は共に著しく肥大した大型のもので(20.7 mm), 一見した時, その採集地からも新しいものかと思うほど異質な感じの標本であった. 従来, 東北・北陸などの各地で得られた本種の雌個体はせいぜい15 mm未満というところであったから尚更である. しかし貯精囊内の2種類の角質板の形状, 表面構造などは完全に本種のそれと一致した. これまでに記録された地域では長野県が最も西端となり, 滋賀県は全く予想していなかった分布域である. この属では雄生殖器の形状が種間で明瞭な差が出るので, 雄個体が得られることを期待している.

Actenicerus aerosus aerosus (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ

奈良市春日山, 1♂, 7.VI.1993.

Acteniceromorphus kurofunei (MIWA, 1934) ミヤマフトヒラタコメツキ

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♀, 17.V.1988.

Calambus mundulus (LEWIS, 1879) チャグロヒラタコメツキ

長野県王滝村御嶽山八海山, 1♂, 26.VII.1989.

奈良市春日山, 1♀, 25.XII.1982; 1♀, 17.II.1988.

大阪府南河内郡千早赤阪村金剛山(正面口), 2♀♀, 6.VI.1998.

大阪からの記録はこれが初めてと思われる.

Calambus japonicus (FLEUTIAUX, 1902) クロツヤヒラタコメツキ

京都市左京区佐々里峠, 1♀, 24.V.1998; 貴船溪谷, 1♂, 22.I.1992.

Neopristilophus serrifer serrifer (CANDÈZE, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ (Fig.6)

奈良市春日山, 1♀, 10.VI.1992; 1♀, 18.VI.1997.

岡山県真庭郡川上村上徳山, 1♀, 11.VI.1997.

一般に本種の雌は著しく大型になる傾向があるが, 今回検した資料は共に体長が27 mmを越えるものであった.

Agaripenthes helvolus (CANDÈZE, 1873) ヒメホソキコメツキ

奈良市春日山, 1♀, 18.VI.1997.

Haterumelater bicarinatus bicarinatus (CANDÈZE, 1873) チャイロコメツキ

奈良市春日山, 1♂, 31.X.1987.

Haterumelater bicarinatus shibatai ÔHIRA, 1968 シバタチャイロコメツキ

沖縄県石垣島バンナ植物園, 1♀, 19.VI.1987.

Haterumelater bifoveolatus (MIWA, 1927) クロツヤコメツキ

東京都小笠原諸島父島, 1♂, 20.VI.1988, 的場 續 leg.

Reitterelater rugipennis (LEWIS, 1894) アラハダチャイロコメツキ

奈良市春日山, 1♀, 25.XII.1982; 1♀, 8.I.1992.

Reitterelater miyako (KISHII, 1969) ミヤコアラハダチャイロコメツキ (Figs.10 & 11)

京都市西京区松尾桂川右岸, 1♂, 27.XII.1999.

本種は京都市東山の日吉神社境内で 1962 年の 8 月下旬に, 当時高校生の楠亀稔 (KUSUKI Minoru) 君が夏期宿題のため, 神社境内の燈火に集来していた甲虫採集時に得た 1 頭の雌個体に基づいて筆者 (1969: 9-10) が記載したもので, 当初前種の変異と見ていたが, その後気になって詳細に検討した結果, 新種と考えるに至ったものである. 以後しばらくの間再報は無かったが, 1985 年 12 月の本学会時, 宝塚市の新家勝 (NIINOMI Masaru) 氏が同定依頼で持参された資料の中に, 同市武庫川畔宝塚大橋にある電灯で採集された, 新鮮な雄の 1 個体を見出した. 早速, 生殖器を処理, 検鏡の結果, 前種との明瞭な違いが分かったものである (KISHII, 1986: 19-20). その後, 京都大学の高橋敏教授が奈良市の奈良公園内で 1988 年 3 月と 11 月採集の, 共に 1 雄個体を見る機会にも接した. 鳥取県からの報告例もあり, 現在近畿以西の地に分布していることが分かっているが, 何れにしても大変珍しい種である. 京都からは今回の桂川の記録が 2 例目となるが, 広葉樹の多い比較的低位での発見例が殆どで, この種の生息域の特徴であろう.

Ampedus (Parelater) puniceus (LEWIS, 1879) ハネビロアカコメツキ

長野県木曾福島町東山, 1♀, 23.VI.1982.

Ampedus (Miwaelater) carbunculus (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

滋賀県比良山, 1♂, 16.V.1990.

Ampedus (Ampedus) sp. アカコメツキの一種

群馬県片品村菅沼, 1♀, 19.VI.1997, 服部一弘 leg.

外見上, *A. (A.) otome* KISHII, 1992 オトメアカコメツキによく似ているが, 体毛は黒く, 光線によっては白色に光って見え, 脚部の色彩も茶褐色に近い. 触角は欠損部が多く基部の 2 節のみではっきりしないが, 黒褐色で, すべて色彩的には *otome* より暗色気味である. また, 貯精囊内の刺状突起は形状的には似ているが, 極めて多くほぼ 160-170 本位あり, *otome* での 50-60 本の 3 倍近い. 触角が不完全な点もあり, 早急な決定は避けるが, 新しい種の可能性は大きいものと思う.

Ampedus (Ampedus) orientalis (LEWIS, 1894) アカコメツキ

長野県木曾福島町東山, 1♀, 22.VI.1982.

滋賀県比良山, 1♂, 23.X.1985.

京都府北桑田郡美山町芦生演習林, 1 ex., 6.XI.1985.

奈良県奈良市春日山, 1♂, 12.III.1982; 1♂, 7.I.1984; 1♂, 13.I.1984; 1♂, 6.V.1987; 1♀, 6.V.1987; 1♀, 6.V.1988; 1♂, 6.I.1989; 御所市金剛山, 1♂, 6.XI.1984; 1♀, 22.VI.1988; 櫻井市多武峰, 1♀, 6.VII.1983. 和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♂, 10.IV.1985.

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 17.V.1988.

アカコメツキ類は近年の研究で旧北区域での分化が最も進んでいるグループの一つと考えられ, 本邦でも現在ほぼ 60 余の種・亜種が知られているが, 本種はその中で最も普遍的に且つ個体数も多く見られる種である. 上記の資料中, 兵庫の赤西溪谷産の雄個体は, 生殖器側片先端の側方突起形状がやや他の個体のもとは異なり, 前胸背板点刻もやや小さく, より疎な点でも多少異質な感じの強いものであるが, 個体変異の範疇に入るものと思われる.

Ampedus (Ampedus) ashiunis KISHII, 1976 アシウアカコメツキ

京都府北桑田郡美山町佐々里峠, 1♀, 20.VI.1985.

京都府美山町の芦生演習林で水野弘造氏により得られた 7 頭の標本で記載された (KISHII, 1976: 11-12) が, この近辺からはその後もしばしば採集されている. 京都以外の地域では奈良県産の標

本を確認したが、それ以外では鳥取県産の未発表資料を見ているのみである。本種は前種に似るが両性の生殖器構造で区別は困難ではない。

Ampedus (Ampedus) ainu ainu (LEWIS, 1894) アイヌアカコメツキ

北海道礼文島, 1♂, 18.VI.1999, 岡崎国男 leg.

Ampedus (Ampedus) fagi kitami KISHII, 1998 エゾアカアシコメツキ

北海道札幌市藻岩山, 1♀, 22.VII.1997, 斎藤龍司 leg.

最近、北見市産の雌雄各1個体で記載した種で(KISHII, 1998a: 15), その後、同じ道東の小清水町産の雌個体も検した。本種と同じものと思われるものを三輪勇一郎博士(MIWA, 1934: 78)は札幌から記録したが、今回の藻岩山の標本の形態も道東産個体とよく一致していた。

Ampedus (Ampedus) ashiaka KISHII, 1998 オオアカアシアカコメツキ (Fig.7)

鳥取県伯耆大山, 1♀, 5.XII.1977.

従来アカアシアカコメツキの和名で記録されていたアカコメツキは、北海道から九州まで本邦に広く分布するように見られていたが、筆者はこれら各地域からの多くの資料を検討した結果、中部山岳地帯以北の個体群が、LEWIS (1984: 34, Subashiri & Hakone) の記載した *A. (A.) fagi* に相当し、前記種のように北海道のものは別亜種と見なした。それで近畿地方周辺から以西の、少なくとも本州内に分布する個体群は別の独立種として本種を記載した(KISHII, 1998: 16-17)。なお四国・九州からの信頼すべき資料は残念ながら未だ検する機会がない。今回の鳥取県大山からはparatype標本として1雌個体の記録が既にある。

Ampedus (Ampedus) optabilis optabilis (LEWIS, 1894) オオアカコメツキ (Fig.8)

山梨県塩山市大菩薩嶺日川林道, 1♂, 18.VI.1983.

滋賀県比良山, 1♂, 27.V.1981.

奈良県御所市金剛山, 1ex., 14.XII.1983.

アカコメツキに次いでよく得られる種であるが、滋賀県からの信頼すべき記録例は無いようで、今回の比良山からの1雄資料は初めてと思われる。本種は別亜種として北海道及び四国から、それぞれ記載されているが(ÔHIRA, 1989: 16, Spporo & Aibetsu), (KISHII, 1994: 3-4, Tokushima), 九州に分布する資料はまだ検する機会が無い。

Ampedus (Ampedus) kai KISHII, 1986 カイオオアカコメツキ

長野県御嶽山, 1ex., 27.VII.1989.

本邦産のアカコメツキ類では屋久島産の *A. (A.) yakuensis* と共に最も大型のものの一つである。一般的には体長が14-15mm位のものが殆どであるが、中には16-17mmに達する。現在のところ山梨・長野・岐阜県の高地帯からのみ得られているが、特に少ないというものでもない。

Ampedus (Ampedus) azurescens scutellaris (LEWIS, 1894) セダカアカコメツキ (Fig.9)

長野県木曾福島町東山, 1♀, 23.VI.1982.

京都市西京区松尾桂川右岸, 1♂, 1♀, 18.XII.1999.

これまでの近畿地域での本種の確実な報告例としては、大台ヶ原山系(三重・奈良県境)のみで、更に本種の生息域は一般に比較的冷涼な高地帯と考えていたので、今回の京都市内桂川河岸での発見にはいささか驚いた。12月という越冬期のもので、ペアという研究上大変有り難い資料であった。上翅会合線前線の隆起がやや弱い点を除くと、両性の生殖器構造も東北あたりのものとほとんど差は見られなかった。また、四国・九州からも記録はあるが、少なくとも四国産の本種と見られていたものはオオアカコメツキの四国亜種 *A. (A.) optabilis awa* アワオオアカコメツキの可能性が高い。

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 17.V.1988; 養父郡大屋町坂ノ谷林道, 1♂, 21.VII.1999.
Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ
 京都府北桑田郡美山町大野ダム, 1♂, 12.IV.2000.

兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 26.VI.1995.
Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus (LEWIS, 1894) ケブカクロコメツキ
 兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 17.V.1988.

Ampedus (Ampedus) tenuistriatus (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ
 兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 1♀, 17.V.1988.

Ampedus (Ampedus) aureovestitus aureovestitus KISHII, 1966 ケブカコクロコメツキ
 兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 1♀, 26.VI.1995.

前種によく似ていて同定の間違いやすい種である。一時期同種と見なされていたが、両性の生殖器構造での明確な違いで別種であることが分かった (KISHII, 1998: 19)。前種は青森から屋久島(別亜種?)まで広く且つ普通に見られるが、本種は北海道(別亜種)から近畿地方までが現在知られている分布域で、比較的高地帯に多い。兵庫県産の標本は今回初めて見たものである。

Ampedus (Ampedus) tamba KISHII, 1976 タンバコクロコメツキ (Fig.12)
 兵庫県宍粟郡波賀町音水, 1♀, 18.VI.1990; 赤西溪谷, 1♂, 2♀ 30.VI.1989.

いわゆるコクロコメツキ類と称される小型黒色のコメツキ類は多くの種が知られるようになり、何れもよく似ているので分類の困難なものの一つである。雄生殖器側片突起の形状が独特で、雌貯精囊内の刺状突起も数が少なく特徴のはっきりした形状なので、これらの形態差で同定はさほど難しくはないが、一般外形のみでは容易ではない。本種は北海道から四国まで広く分布し、この類では最も多いようであるが、地域的には固有の別種もあり注意を要する。兵庫県からの報告を見ないので、今回が初めての記録となるが、兵庫県からはよく似た別種のA.(A.) *chigo* チゴコクロコメツキとA.(A.) *akihikoi* ワタナベコクロコメツキも知られているので、特に注意が肝要である。

Akitsu aquilus aquilus (CANDÈZE, 1878) クリイロニセコメツキ
 兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 31.VII.1996.

Akitsu aquilus ryukyuensis (ÔHIRA, 1968) リュウキュウアシプトコメツキ
 屋久島男川, 1♂, 15.VII.1985; 中山, 1♂, 13.VII.1992.

Dalopius exilis KISHII, 1956 ナガナカグロヒメコメツキ
 長野県王滝村御嶽山八海山, 2♂♂, 1♀, 26.VII.1989.

Dalopius tamui KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ
 奈良県和佐又山, 1♂, 22-23.V.1990.
 兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♀, 29.V.1988.

Ectinoides insignitus insignitus (LEWIS, 1894) ヨツキボシコメツキ (Fig.13)
 大阪府箕面市下止々呂美, 1♂, 21.V.1993.
 兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 26.VI.1995.

Ectinus insidiosus (LEWIS, 1894) キアシクロムナボソコメツキ
 奈良県御所市金剛山, 1EX., 15.VI.1988.

Ectinus higonius (LEWIS, 1894) クロムナボソコメツキ
 京都市左京区佐々里峠, 1EX., 18.VI.1986.

Ectinus dahuricus persimilis (LEWIS, 1894) オオカバイロコメツキ
 北海道礼文島, 2♂♂, 18.VI.1999, 岡崎国男 leg.

群馬県片品村菅沼, 1♂, 12.VI.1994, 服部一弘 leg.

Ectinus longicollis (LEWIS, 1894) ムネナガカバイロコメツキ

山梨県塩山市大菩薩嶺日川林道, 1♂, 17-18.VI.1993.

長野県王滝村御嶽山八海山, 3 EXS., 26.VII.1989.

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ

奈良県御所市金剛山, 1♂, 15.VI.1988.

兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 26.VI.1995.

Agriotes subvittatus ogurae LEWIS, 1894 チャイロムナボソコメツキ (Fig.16)

京都市西京区松尾桂川右岸, 1♂, 27.XII.1999.

LEWIS (1894:313)が京都市南部の巨椋池周辺で採集した個体で記載したが、長らく再報が無かった。しかし、現在地名(小倉)のみ残り、大規模干拓の結果、その面影すら無くなったこの池の近くの淀川河川敷で記載後ほぼ半世紀を経た頃に相次いでその生息が確認された(岸井, 1959: 64; KISHII, 1984: 64-65; 岸井, 1991: 99)。京都で教育用昆虫標本などを製作し、全国の小学校などに販売しておられた大江豊山(Oh-e Buzan)氏が1956年の暮れ、昆虫の名称を聞きに筆者の勤務先にこられた時、本種を見て驚いたのが初めてであった(京都府八幡淀川河原, 1♂, IV.1956, B.Oh-e leg.)。

その後、澤田高平氏が大阪の守口市の、同じく淀川で採集された、より古い時期の標本も検した(1♀, 27.IV.1952)。今回の標本は淀川上流の桂川で得られたが、これは勿論初めてである。

Elater niponensis (LEWIS, 1894) オオクロナガコメツキ (Fig.14)

兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 31.VII.1996.

次種と共に大型黒色の重厚な感じの、典型的コメツキムシ・スタイルを持つ種である。しかし何れも、分布域が比較的広いにもかかわらず珍しい部類に入る種である。兵庫県からの記録はこれが初めてと思われる。

Parallelostethus georgelewisii

W.SUZUKI, 1985 ヒメクロ
ナガコメツキ (Fig.15)

岡山県真庭郡湯原町, 1♂,
5.VIII.2000, 岡崎国男 leg.

岡山県では渡辺(1990)が既に川上村から報告しているが、少ないもの
のようである。なお、本種
の方が前種よりも温暖な
地域に生息すると見られ
る。

Mulsanteus linteatus linteatus (CANDÈZE, 1873)

コヒゲナガコメツキ

屋久島原, 1♂, 12.VII. 19-
92, 谷口滋 leg.; 大川林道,
1♂, 14.VII.1992.

Sericus bifoveolatus (LEWIS,
1894) コガネホソコメツキ

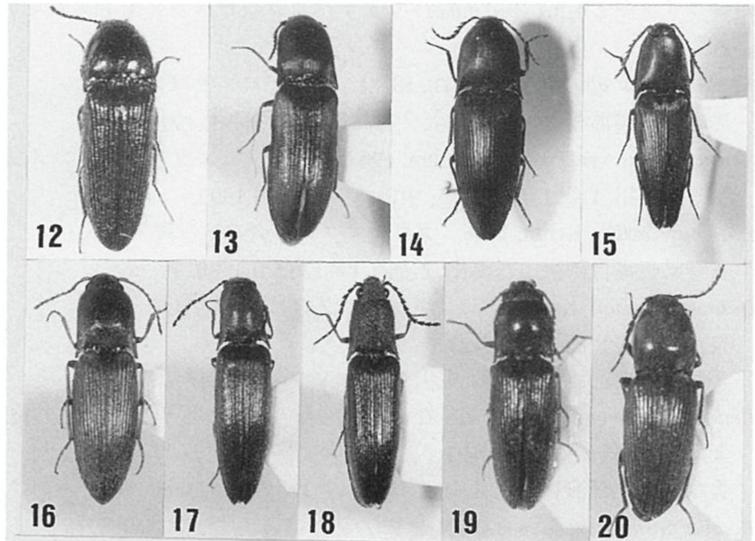


写真 12-20: 12, タンバコクロコメツキ(兵庫赤西溪谷, ♀, 7.98 mm); 13, ヨツキボシコメツキ(兵庫氷ノ山, ♀, 7.3 mm); 14, オオクロナガコメツキ(兵庫氷ノ山, ♀, 21.4 mm); 15, ヒメクロナガコメツキ(岡山湯原町, ♂, 19.5 mm); 16, チャイロムナボソコメツキ(京都市松尾, ♂, 8.0 mm); 17, ヒメホソコガネコメツキ(兵庫赤西溪谷, ♂, 8.3 mm); 18, オキナワホソコメツキ(与那国島宇良部岳, ♂, 10.7 mm); 19, ヨシモトクチボソコメツキ(奄美大島南川林道, ♀, 5.3 mm); 20, アカアシコハナコメツキ(八幡市木津川, ♂, 5.8 mm)。

奈良県和佐又山, 1♀, 22-23.V.1990.

Sericus hiramatsui (ÔHIRA, 1995) ヒメホソコガネコメツキ (Fig.17)

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♂, 17.V.1988.

本種は最近記載されたが, 筆者が前種の変種として京都市鞍馬山から雌個体で報告した *Vuilletus bifoveolatus* var. *nobuchii* (KISHII, 1955: 110)と同じものである. 当時は個体変異的なものと考えていたが, その後三重・京都・奈良からも複数の標本が得られ, 扱いを考慮していたものであった. 本種は和歌山県の護摩壇山からの1♂, 2♀♀で記載されたが, それ以外の地域からの報告は無いようなので, 上記地域のデータを以下に記録しておく.

京都府北桑田郡美山町声生演習林, 1♂, 5-6.V.1973, 水野弘造 leg.

京都市左京区貴船溪谷(樹皮下), 1♀, 5.III.1955, 野淵輝 leg. (original specimen of var. *nobuchii*).

三重県一志郡美杉村平倉, 1♂, 4.V.1988, 今村隆一 leg.; 1♂, 21.V.1989, 秋田勝巳 leg.

奈良県大峰山持経ノ宿, 1♂, 5.V.1981, 水野弘造 leg.

奈良県奈良市春日山原生林, 1♂, 1.V.1952, 上住泰 leg.

なお, 本種の属名として筆者は *Sericus* ESCHSCHOLTZ, 1829を妥当として用いているが, 原記載では *Shirozulus* ÔHIRA, 1966を用いている. またSUZUKI (1999: 195)はこれを *Sericus* 属の亜属として処置しているが, 何れにしるこの両属間における差異は少なく, 雄生殖器官の構造は極めてよく似ており同質のものであることには間違いない.

Ludioschema okinawensis (MIWA, 1927) オキナワホソコメツキ (Fig.18)

沖縄県与那国島宇良部岳, 1♂, 28.IV.1991, 栗原桂一 leg.

本種の属名として *Chiagosnius* FLEUTIAUX, 1940が用いられるようになって長いですが, 最近, イタリアの PLATIA et GUDENZI (1998: 60-61)が検討した結果, この属が *Ludioschema* REITTER, 1891のシノニムであるとされたので上記の扱いとしたものである.

Silesis musculus musculus CANDÈZE, 1873 クチプトコメツキ

長野県王滝村御嶽山八海山, 3 exs., 26-27.VII.1989.

京都府八幡市木津川, 1♂, 18.VII.1986.

奈良県五條市金剛山(ブナ林), 1♂, 21.VII.1988; 1 ex., 21.VII.1989; 1 ex., 8.VIII.1991.

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♀, 11.VII.1990.

兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♀, 30.VI.1989; 養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 2♀♀, 26.VII.1995; 1♂, 2♀♀, 21.VII.1999; 尼崎市武庫町武庫川左岸甲武橋, 1♂, 8.VI.1997.

Glyphonyx illepidus CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♀, 12.VIII.1986; 1♂, 28.VII.1987.

Glyphonyx yoshimotoi ÔHIRA, 1971 ヨシモトクチボソコメツキ (Fig.19)

鹿児島県奄美大島南川林道, 1♀, 30.VI-5.VII.1986.

Priopus yonaguni (KISHII, 1982) ヨナグニホソクシコメツキ

沖縄県与那国島宇良部岳, 1♂, 4.IV.1991, 栗原桂一 leg.

本種は初め *P. ferrugineipennis* (MIWA, 1927) アカホソクシコメツキの与那国島特有の亜種として記載されたが, 最近独立の固有種と認定された (ÔHIRA, 1997: 31-32). 両者の前胸背板点刻状態には著しい差が明瞭で, この扱いは妥当であると考え.

Melanotus legatoides KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

大阪府交野市私市, 1♀, 27.I.1987.

珍しい種でないが, これまでに大阪府下での記録や報告は無いようである. 形態的に近似の *M.*

legatus クシコメツキと混同している可能性が高いものと思う。

Melanotus senilis senilis CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ

兵庫県宍粟郡波賀町音水, 1♀, 18.VI.1990.

Spheniscosomus cete cete (CANDÈZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ

兵庫県宝塚市武田尾武庫川左岸, 1♀, 28.IV.1998.

Spheniscosomus japonicus (ÔHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ

長野県昼神温泉, 1♀, 1-2.VII.1992.

Spheniscosomus omotoensis (ÔHIRA, 1966) オモトクロクシコメツキ

沖縄県石垣島石垣ダム, 1♀, 12.VIII.1982.

Fleutiauxellus (Migiwa) cruciatus (CANDÈZE, 1873) ジュウジミズギワコメツキ

京都府八幡市木津川, 1♂, 8.VIII.1981.

Quasimus ranzanus KISHII, 1970 ニセニホンチビマメコメツキ

奈良市春日山, 3 exs., 8.VI.1998; 1 ex., 23.VI.2000.

秋田県から長崎の五島列島まで広く分布し、近畿圏でも局所的に多く見られることもあるが、奈良県から得られたのは初めてである。*Q. japonicus* ニホンチビマメコメツキに極めてよく似ているので同定には注意を要する。本種では前胸背板点刻が著しく大型で密である。

Yukoana elliptica (CANDÈZE, 1873) ヘリマメコメツキ

奈良市春日山, 1♂, 30.V.1986.

Dicronychus (Platynychus) nothus (CANDÈZE, 1865) オオハナコメツキ

京都府八幡市木津川御幸橋付近, 2♂♂, 5.V.1997.

兵庫県宝塚市武田尾武庫川左岸, 1♀, 28.IV.1998.

Displatynychus adjutor (CANDÈZE, 1873) アカアシハナコメツキ

奈良市若草山原生林側, 1 ex., 20.VI.1998.

Cardiophorus pinguis LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

京都市左京区花脊大見尾根, 1 ex., 25.V.1990.

Paracardiophorus pullatus pullatus (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ

京都府八幡市木津川, 1 ex., 15.VII.1986.

奈良県御所市金剛山, 1 ex., 8.VII.1987.

大阪府池田市東山, 1 ex., 16.VI.1984; 2 exs., 20.VI.1984.

Paracardiophorus sequens sequens (CANDÈZE, 1873) アカアシコハナコメツキ (Fig.20)

京都府八幡市木津川, 1♂, 16.VII.1986; 2♂♂, 22.III.1990.

兵庫県神戸市須磨区須磨浦, 2 exs., 21.IV.1988.

引用文献

河上康子(1998) 大阪湾沿岸地域におけるコメツキムシの記録. *Nejirebane, Osaka*, 80: 10.

河上康子・稲畑憲昭(2000) 大阪湾沿岸地域における海浜・河口汽水域の地表性甲虫調査. 関西甲虫談話会資料 (Pub. Kansai Coleopterists' Saloon, Osaka), 16: 1-26.

岸井尚(1955) 貴船溪谷及びその附近に産する珍らしい叩頭虫(II). *Rare Elaterid-beetles from Kibune and the adjacent area(II)*. AKITU, Kyoto, 4(4): 109-110.

岸井尚(1959) コメツキムシ新分布地2題. *ibid.*, 8(3): 64.

KISHII, T. (1969) Some new forms of Elateridae in Japan (VI). *Bull. Heian High Sch.*, Kyoto, 14: 1-10.

KISHII, T. (1976) Some new forms of Elateridae in Japan (IX). *Sci. Rep. Kyoto Pref. (Ann. Rep. Private Schs. Kyoto Pref.)*, 14: 7-19.

KISHII, T. (1979) Some new forms and records of Elateridae in Japan and its adjacent area. Some new forms of Elateridae in Japan (XIV). *ibid.*,

17: 1-21.

KISHII, T. (1984) The Elaterid-beetles of the Tribe Agriotini from Japan (Coleoptera: Elateridae, Elaterinae). The Elateridae of Japan, 1. Bull. Heian High Sch., Kyoto, 28: 11-77.

KISHII, T. (1985) Some new forms of Elateridae in Japan (XVII). *ibid.*, 29: 1-30.

岸井尚(1986) ミヤコアラハダチャイロコメツキ宝塚に産す. *Kiberihamushi*, Kobe, 14(1): 1-26.

岸井尚(1991) 幻の池とコメツキ. オグラカバイロコメツキの再発見. 京都の昆虫. 京都新聞社: 99.

KISHII, T. (1994) Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (13). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 38: 1-35.

KISHII, T. (1998a) Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (16). *ibid.*, 41: 1-28.

岸井尚(1998b) 神戸舞子ヶ浜のツシマヒメサビキコリ. *Nejirebane*, Osaka, 79: 6.

KISHII, T. (1999) A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 42: 1-144.

LEWIS, G. (1894) On the Elateridae of Japan. *Annl. Mag. Nat., Hist.*, [6]13: 25-48, 311-320.

MIWA, Y. (1934) The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Rep. Dept. Agr. Gov. res. Inst., Formosa, 65: 1-289.

ÔHIRA, H. (1989) Notes on *Ampedus (Ampedus) optabilis* (Lewis, 1894) and its allied species (Coleoptera: Elateridae). *Trans. Essa entom. Sci.*, Niigata, 67: 3-17 (in Japanese with English descriptions).

大平仁夫(1997) 日本産ホソシコメツキ類について (Notes on the *Priopus*-species from Japan. *Coleoptera, Elateridae*. *Gekkan-Mushi*, Tokyo, 321: 29-33.

ÔHIRA, H. (1999) The *Ampedus*-species (Coleoptera, Elateridae) in Japan (2), *Ampedus (Ampedus) azureascens*. *New Entom.*, Nagano, 48 (3,4): 29-32 (in Japanese with English summary).

PLATIA, G. et I. GUDENZI (1998) Note tassonomiche e faunistiche su Elateridi del vicino oriente (Coleoptera, Elateridae). *Boll. Ass. romana Ent.*, 53(1-4): 49-62.

SUZUKI, W. (1999) Catalogue of the Family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. *Mscell. Rep. Hiwa Mus. Nat. Hist.*, 38: 1-348.



岸井 尚

略歴：1929年4月函館市生まれ。幼時期から少年時は青森市在住で昆虫採集に熱中。京都府立西京大学（現在京都府立大学）農学部卒。学校法人平安学園にて1999年3月まで教職。1987年京都府立大学より農学博士号を授与。

(きしい たかし)

北海道におけるキヌツヤナガクチキの記録

石田 浩司

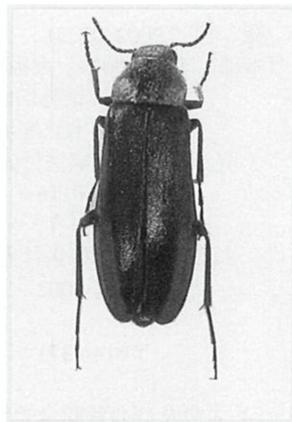
〒006-0832札幌市手稲区曙2条5丁目17-8

キヌツヤナガクチキ *Phryganophilus auritus* MOTSCHULSKY の分布は、福島、栃木の両県に局限されるとされてきたが（水野，1991；水野，1994），筆者は北海道大雪山にて同種を得ているので報告したい。

1 ex., 北海道東川町旭岳温泉, 24. VII. 1993.

大きなアカエゾマツ立ち枯れで得た。従来，本種の産地は福島県館岩村湯ノ花周辺，福島県いわき市江田，栃木県栗山村土呂部が知られているのみであった。

水野弘造氏によれば，おそらく北海道初記録と思われるとのことである。また，本種は福島県館岩村周辺ではコナラヤクリ枯れ枝の叩き網によって得られることが多いが，北海道では針葉樹で得られたことは興味深い。なお，本種が採集されたアカエゾマツ立ち枯れでは，他にツツホソナガクチキ *Xylita livida* (SAHLBERG) とと思われるナガクチキムシ，アラメハナカミキリ，アオヒメスギカミキリなどが得られたこ



キヌツヤナガクチキ

とを付け加えておく。末筆ながら発表を勧めて頂いた水野弘造氏に厚くお礼申し上げる。

参考文献

水野弘造. 1991. 福島県産ナガクチキムシ科甲虫目録. 昆虫と自然26(5):34-39.

水野弘造. 1994. ナガクチキムシ漫談(10)九州には居そうもないナガクチキムシ. 北九州の昆虫41(2):97-104.

(いしだ こうじ)

虫屋の広場(38)

[新刊紹介]

◎穂積俊文博士記念論文集発行事業会(2001),「穂積俊文博士記念論文集—東海甲虫誌」,368pp.

穂積博士の古希退職を祝っての論文集で、寄稿された方々によるカラー図版付きのオリジナル論文や交友関係の深かった人の祝辞、思い出話など、内容は多彩であるが、注目すべきは博士が育て上げられた名古屋昆虫同好会の会誌「佳香蝶」に連載された博士自身の著作「東海甲虫誌(1)-(28)」の全復刻であろう。手書き孔版から始まって[(1):1955-(8):1959]おそらくはタイプオフセット[(9):1960-(17):1971]を経て、写真オフセット[(18):1972-(28):1986]に至るそのシリーズはさながら印刷技術の発展の歴史、ひいては日本の国力の向上の過程を見る思いであるが、一貫して地域ファウナの解明に心血を注がれた博士の情熱の結晶にほかならない。全国各地の昆虫同好会も終戦後間もなく発足したところは殆ど全て、会誌の発行では似たような苦勞を舐めてこられた筈で、20世紀を振り返るためにも格好の冊子となっている。世上、活字化されていない文献を軽視する(あるいは文献として認めない)傾向があるが、内容の質を印刷の質で計ろうとする愚挙に他ならない。編集者としても記念誌の発行に対して心よりお祝い申し上げます。

本冊子は協賛者の拠出金で発行されたものであるが、若干の残部がある由。購入を希望される方は下記に申しこまれたい。

(送料込み, ¥5000-/1冊) 豊橋市自然史博物館 長谷川道明 宛

Tel. 0532-41-4747. Fax. 0532-41-8020. hasegawa-michi@msi.biglobe.ne.jp

(水野弘造)

発行：2002.03.31. 日本甲虫学会(会長 佐々治寛之)
 (本部) 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
 振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>
 Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

昆虫学評論原稿送付先(英文)
 〒666-0116 川西市水明台 3-1-73 林 靖彦 Tel. 0727-93-3712
 E-mail: hayashiy@silver.ocn.ne.jp

ねじればね原稿送付先(和文, E-mailでの投稿を歓迎します)
 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 水野弘造 Tel.(Fax) 0774-32-4929
 E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp

〒614-8371 八幡市男山雄徳 8 E7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491
 E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp

入会及び会費問合せ先(年会費 5,000円, 入会金は不要)
 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 野村英世 Tel. 0722-98-4066